

温浴

坂口安吾

青空文庫

今の家へは、温泉がぬるいというのを承知の上で越してきた。

伊東は市ではあるが、熱海とは比較にならないほど、ひなびている。けれども温泉場であるから、道路には広告塔があつて休むことなく喋りまくり唄いまくっているし、旅館からは絶え間なくラジオがなりたてて、ヘタクソなピアノもきこえる。先方も商売であるから、静かにしろ、と云うわけにはいかない。

よそは住宅難だが、伊東には売家も貸家も多い。伊東は海山の幸にめぐまれて食糧事情がよかつたが、東京も食糧事情がよくなつたので、不便を忍んで通勤していた人たちが東京へ戻りはじめたのである。

閑静で温泉もあるという家は売家だから住めない。貸家の方はたいがい山の上の温泉のない家で、ぜひ住んでくれないかと云つてきた空別荘も、景勝閑静な山荘であつたが、温泉がなかつた。

今の家は比較的街に近くて、この上もなく閑静だ。私の書齋の下は音無川で、一方は水田であり、自分の家の物音以外は殆ど音というものがない。その上、温泉もあるというから、非常にぬるい温泉だと仲介者も差配も家主も念には念を入れてダメを押ししたのを承知

の上で越してきた。

奇妙な貸家で、だいたい差配というものは家主に使われているのが普通のはずであるが、ここはアベコベに、差配が伊東で一二を争う金持で、御殿のような大邸宅に住んでいる。

家主の方も相当な洋館にいるが、差配にくらべると、月とスツポンである。差配は七十ぐらゐの老人で、市会議員で、土建の社長だそうだ。

かりるに当って女房が挨拶に行ったら、温泉のぬるいことを例外なく念を押して、

「あの婆さん（家主のこと）自分の掘った温泉だから、意地をはって、ガタガタふるえながら、はいつてる。絶え間なくタオルで身体をこすりながら、はいつてる」

と云ったそうだ。

家賃はいくらでもいいと云うから、こつちで勝手にきめて持たせてやったら、多すぎる、と云って受けとったそうだが、東京の相場の四分の一ぐらゐの家賃かも知れない。伊東は家賃がやすい。

そのとき、女房に命じて、温泉を加熱する装置を施してもいいか、ときかせると、

「それは勝手だが、あんなもの、温泉と思っちゃいかん」

と、全然ここの温泉を軽蔑しきっていたそうで、婆さんが絶え間なくタオルで全身摩擦

しながら意地づくでつかっている温泉とは何度ぐらいだろうと興にかられたが、調査もせず引越した。

私はもともとヌル湯好きで、いつまでつかっても汗のでない程度が好きだ。

ここの温泉は、私にも、いくらかヌルすぎる。というのは、胃のところが冷えてくる。けれども胃の上へタオルをのつけておくと、冷感が去るので、入浴しているうちは、たのしい。私は三十分から一時間、時には一時間半はいつていたこともある。だんだん、ねむくなる。枕があつたら、このまま、ねむりたい、と思うことがあつた。

入浴は快適だったが、あがる時が苦痛であつた。越して来たのが冬だから、湯から上ると、ガタガタふるえる。とりわけ寒い日は、全身をふく余裕がなく、夢中で着物をひツかぶっていたりした。

とにかく快適に入つていられるのだから、体温よりちよつと高い目の三十七八度ぐらいだろうときめていたが、温度計を買ってきて測つてみたら、三十四度五分であつた。もつとも、私の平熱は三十五度である。胃に冷感をうけるのは、やっぱり体温よりも低いせいだな、という当然なことが、その時になつて、はじめて納得できた始末だが、体温と同じ水温なら入浴は快適だという結論も得たのである。

しかし家族たちはヌルすぎるといって、入浴しなかった。そこで温泉加熱の装置を施したが、薪をたき、釜の中をグルグルまいたパイプに水道を通し、湯となって湯槽へ流れこむ仕掛けで、入浴している方は温泉気分であるが、外では薪をたいているのだ。温泉場で釜の火をたくとは味気ない話だ。

私にとっては、三十八度から四十度ぐらいが最も快適な入浴であることを確認したが、冬は湯上りの寒さに抗する必要があるので、多少汗ばむのを我慢して、四十一二度の温泉の湯につかる。伊東市でこれ以上チツポケな湯殿はなからうと思われるぐらい、洗い場もないほどのところだが、私にはこれ以上の広さも必要ではない。ただ釜たきをする人たちが気の毒であった。

私は朝と夕方と真夜中に入浴する。朝、ぬるいうちに私がいり、そのあと熱くして家族がはいる。それをほつとくと、夕方、私には手頃のぬるさとなっている。

けれども、私がいがい徹夜で仕事しており、深夜に入浴したがることを知っているの
で、気の毒がつて、たいてくれる。八時ごろ四十五度ぐらいにしておく、石の浴槽は冬
でも却々^{なかなか}冷却せず、十二時ごろは四十一二度、二時三時でも、三十八度ぐらいである。

私は深夜に二度入浴して、頭を休め、冷えた全身をあたためることができる。私はタンサ

ンガスに弱く、たちまち頭がしびれるので、せっかく炭火で室内をあたたためても、窓をあけてガスをだすから、常に寒い思いをしていなければならぬのである。

気の毒であるから、風呂はわかさなくともいいぜ、と高橋に云うが、彼も私を気の毒がつているらしく、たいておく。親切はありがたいが、気の毒がられるのも、つらい。思うように仕事ができないと、フロタきの人たちに悪いような気持になるので、かえって負担になることがあった。

けれども、ヌルい湯に長くつかっていることは、頭を鎮静させ、時空を忘れた茫々たる無心にさそいこんでくれる。うちの湯殿には灯がないので、ほかの部屋からの光で間に合せ、かすかに光のさす湯槽では、まったく、仮睡状態になるときがあった。インシュリンや電気ショック療法のなかった一昔前の精神病院では温浴療法というものをやったそうであるし、ヌル湯の湯治場では、精神病に卓効ありとあるのが多い。それは、しかし、私の場合のように、こんなに湯の温度に同化して長い時間仮睡状態にふけることができたなら、と、註釈が必要ではないかなどと考えた。

私は東京にいたころから、一日に三度四度ずつ入浴する習慣だった。しかし、うすい木でつくられた普通の沸し風呂では、冷めるのが早く、たけば熱く、こんな忘我の状態を経

験することはできなかつた。

例年の冬は仕事ができない習慣であつたが、伊東へきて、仕事ができるようになった。伊東は南国だといつても、ちよつと南へ下つたというだけのこと、東京からくる人には暖かさが感じられても、住む身には分らない。仕事ができるのは温泉のせいだ。ぬるい温泉のせいである。つかつていて汗ばんでくる温度だと、温度に同化することはできないものだ。

私は時間を忘れているが、ひよつとすると、一二分、又、一二分というように、ねむつているのかも知れない。頭のシンが疲れている時には、頭をシャボンの泡だらけにして、湯につかりながら、後頭部からコメカミへかけて十分も十五分も静かにもむこともある。両耳を抑えて、湯の中へ頭をもぐしこんでシャボンを落して、又、湯の温度に同化してしまふ。

人間の頭の廻転などというものは、その人の性質に応じて方法を講じることができないものだ。絶対のものではないし、神秘的なものでもない。苦しかつたら、まず、方法を考えることだ。精神などといって、非物質的な張本にまつりあげるのは、精神を増長させるばかりで、物質的に加工しうる限度をひろげるように工夫すると、相当に細工のきくシロモ

ノだということが分ってくる。

そして、徹夜の仕事を連続していると、視神経の疲れが何よりの悪刺戟になることがのみこめてくる。もつとも、私は強度の近視のところへ、遠視が加わったから、メガネをかけても外してもグアイが悪いのである。それがメガネのツルを支えている鼻梁の疲れを代表者として頭の廻転に鈍痛を加えてくるのである。

その苦痛を天城先生に訴えたら、洗眼器をかって下さった。入浴しながら、これを用いて、冷水で目を洗う。これを三分ぐらいやって、目をとじて、三十分、四十分、湯につかって、茫々去来するままにまかせておくのである。眼の疲れは急速に去った。目に水をそいでから、ヌル湯にながく、ながく、ひたるといふことは、目の疲れとは別に、頭の疲れを払うためにもキキメがあるようだ。また入浴前に歯をみがいておくことも、いくらか入浴の頭に及ぼす効果を助けるようだ。

人間というものは、これ以上の快適をむさぼる必要はないといふことを考えたりする。人生はこれぐらいのものだという嘲笑的なものではない。もつと充足し、ひたりきった楽天気分だ。なんのために生きるか、なんのために仕事をするか、なんのために入浴するか、そんなセンサクを失った充足感において、こうしていることのあたたかさ、なつかしさを

感じることもある。ここに宇宙あり、と大袈裟に云っても、とりわけ変とも思わないだろう。別に詐術ではない。種と仕掛はハッキリしている。一定の温度とその持続だけのことなのである。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 09」筑摩書房

1998（平成10）年10月20日初版第1刷発行

底本の親本：「群像 第五卷第四号」

1950（昭和25）年4月1日発行

初出：「群像 第五卷第四号」

1950（昭和25）年4月1日発行

入力：tatsuki

校正：花田泰治郎

2006年4月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

温浴

坂口安吾

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>